



【ステップ相談の結果】

氏名：足立 咲菜さん 年齢：5歳0ヶ月
生年月日 ：令和3年3月10日
検査実施日：令和8年3月16日

新版K式発達検査 2020 を実施しました。以下の通り結果をご報告します。

	発達年齢	発達指数
認知・適応【目で見て判断する力や手先の動きの発達】	4歳2ヶ月	83
言語・社会【人と言葉でやりとりする力の発達】	3歳5ヶ月	68
全領域	3歳9ヶ月	75

発達年齢とは、実際の年齢ではなく、どれくらいの発達を歩んでいるかを表す値です。

発達指数とは、実際の年齢に対する値です。年齢相応の値を100とし、一般的に平均は80～119の範囲です。

〈検査時の様子など〉

入室時は不安そうにしていたのですが、その後は落ち着いて取り組んでいました。集中力には波があり、注意がそれやすいため、声かけや促しが必要な場面がありました。できそうだと感じた課題では表情がふっと明るくなり、興味のある事は継続して取り組みやすい様子も見られました。爪を触るなど手元が落ち着きにくいところはありませんでしたが、姿勢は安定して座っていました。

〈検査の結果〉と〈支援〉

● 発達の全体像

獲得している力には、2歳6ヶ月～5歳0か月程度の幅があり、発達にばらつきが見られます。

● 学び方の特徴

聞いた言葉の理解については、短い言葉であっても捉えにくさが見られ、口頭での説明だけでは内容をつかむことが難しい様子がありました。特に、いくつかの内容を続けて聞く場面では負担が大きく、言葉だけで理解していくことにはサポートが必要と考えられます。

一方で、見本があると取り組みやすくなる様子が見られました。ただし、その力は、情報が少なく分かりやすく整理されている場合に発揮されやすい傾向があります。

→写真や絵カード、完成した見本を見せるなど、目で見て分かる工夫を取り入れることが大切です。

→また、一度に伝える内容を少なくし、順番に示していくことで理解しやすくなります。このような関わりを通して、「何をすればよいか」が分かりやすくなり、安定した取り組みや成功体験につながると考えられます。

● 人とのやり取り

人の表情や動きよりも、周りの物に気持ちが向きやすく、視線が合う場面は少なめでした。興味が持てた場面では表情が明るくなるなど、気持ちが動く瞬間があり、その時には自分から関わろうとする姿も見られました。一方で、何をすればよいかがかみにくい場面では、注意が別の物に向いたり、手元をいじるなどの自己刺激行動に移ったりしやすく、活動に戻りにくい様子がありました。これは、状況の見通しが持ちにくいことや、必要な情報に注意を向け続けることが難しいことが影響していると考えられます。

→ 気持ちが動いた瞬間を丁寧に拾い、「今のいいね」「できたね」と短く具体的に伝えることで、安心して取り組める場面が増え、人とのやり取りの幅も広がっていくと考えられます。

● 手先の動きと身体を経験

手先の細かい動きや口まわりの動きは発達途中にあり、全体的に身体の使い方にゆっくりさが見られました。また、動きを見てまねる場面では、動きの捉え方や再現が難しく、取り組みにくい様子がありました。

一方で、折り紙や積み木など、見本を見ながら手を動かせる活動では、理解しながら取り組める場面も見られました。ただし、その力は工程が少なく動きが単純な場合に発揮されやすく、手順が多くなると再現が難しくなる様子がありました。

→実際に見て、触れて、結果が目に残るような活動を重ねることで、身体の使い方が育ち、理解の定着にもつながっていくと考えられます。

→「押す・回す・入れる」など、手を動かして試せる活動を取り入れることで、できることが少しずつ広がり、自信や意欲にもつながっていくことが期待されます。

○次回は令和8年10月13日(火)17:00からDr相談(医師の相談)を予約しています。